

微細精密加工の 未来を創造する企業です



株式会社新日本テック

**かす上がり防止加工や
ダイヤモンド金型部品等の
品質向上技術を開発**

昭和28年に、スライドファスナーのメーカーとして創業した新日本テック。研削加工の技術を活かし、昭和50年に金型部門を新設して以来、小物精密金型部品の製作をはじめ、設計から行う金型一式の製作を手がけている。設立から56期を数える現在は、その売上6割を金型部品が占め、残りの4割を金型の設計製作が占めているという状況だ。

「お寿司屋さんのように、鮮度の高いネタを、時代やニーズに合わせて出していきたい」と話す和泉康夫社長。取引先から求められる多種多様な条件に対応する「特注金型部品」を、自慢の微細精密加工技術で作りに出しているのが、同社の強みである。

そうして生み出されたものの一つが「かす上がり防止レーザー加工」。これは、新日本テックが特許を保有する独自の技術。リードフレームや

コネクタ部品のプレス工程で、打ち抜き時に発生する「かす上がり」をレーザー処理した金型部品で防止することができる。金型部品の上面に凹溝をレーザーによって形成することで、金型破損や品質不良の原因とな

るかす上りを防止するのだ。

また、「ダイヤモンド金型部品」も、同社を代表する技術の一つ。被加工材の硬質化が進む中で、より高い硬度を持つ金型部品の開発を望まれ、人工ダイヤモンドを用いて製作。大阪府の経営革新計画承認企業でもあり、近畿経済産業局の戦略的基盤技術高度化支援事業にも参画している。

このように、他社にはない「オンリーワン」の技術開発に力を入れ、同時に、顧客への改善提案力を高めるよう、企業努力を重ねている。

**現場主義で鍛え上げる
従業員一人ひとりが支える
「品質」**

今後、ニーズの広がり期待されているのは、電子部品を作るための金型。例えば、携帯電話のスイッチ部分に使用される部品、情報家電の心臓部分の部品等が挙げられる。さらに、パワーウィンドウのスイッチ部品をはじめとする車載用電子部品も少なくない。これからエコ化が進み、車が小型化していけば、必要部品は多くなっていく見通しもある。

最近では、メデイカル関連からも声がかかるようになったという。いずれにしても「痒いところに手が届く」特注金型部品は、ニーズが高いのだ。これらの高い技術を支えているのは、プラスチック数ミクロンという精度でものづくりができる従業員の技術力。人材育成は、具体的な仕事を通じてのOJTが中心になる。「細やかな機械加工は、必ず得意不得

意が出ますから、最終的に、本人に一番向いている工程で、専門家になつてもらいます」と和泉社長。若手の従業員は、早い段階から研修会や展示会、打ち合わせ等に参加させる。先輩社員や顧客と同じものを見、考えることで、製造のクオリティーが上がり、さらに提案力のある技術者としての成長も促せるからだという。「お客様のニーズを的確に読み、一歩先を進める技術集団でありたい。それが、私たちの考えです」。

株式会社新日本テック

Company
Profile

住所 / 〒538-0035
大阪府大阪市鶴見区浜2-2-81
設立 / 昭和28年5月
資本金 / 1億円
従業員 / 80名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6911-1183
FAX / 06-6911-1182



和泉康夫さん
代表取締役社長

主な事業内容

超硬金型部品、超精密金型部品、高硬度耐磨耗部品、小物精密金型の製作、各種素材の研削加工、電子部品製造用等小物精密金型部品の加工等

ISO 9001
ISO 14001

<http://www.sntec.com/>